

4. 奈良県立大学編

4. 1 教育（地方創生を担う人材育成）について

(1) 観光・地域創造関連科目の実施～地域連携・創生演習（教養講義 VI）～

大学において地域で活躍する人材を育成し、地元での定着を向上させるためには、学生が奈良県内の地方公共団体・企業等の現状や求められる人材像についての理解を進め、地元で働くことに興味関心や魅力を感じることが必要である。そして、学生自身も採用に至るために地域人材としての能力を高めなければならない。「地域連携・創生演習」（教養講義 VI）ではこれを推進すべく、奈良県内の地方公共団体や企業等と連携することで、その現状や魅力について理解を進めた。また、学生はチームを組んで PBL（Project/Problem Based Learning：課題解決型学習）型の授業に参加し、地方公共団体・企業等が抱える経営課題について具体的に取り組み、解決策を提案することで、地域人材としての能力の涵養を図った。また奈良県内の地方公共団体・企業・大学（いわゆる産官学）のゲスト講師の講演を通じて、学生は奈良で働くことを自分のキャリアの問題として考える機会を持った。「地域連携・創生演習」（教養講義 VI）は後期授業として開講し、1 年次 42 名、2 年次 8 名、4 年次 3 名の計 53 名が履修した。

授業では、①担当教員（本学特任准教授・増本貴士）による授業、②PBL での課題解決、③ゲスト講師による講演の 3 つを組み合わせ、下記の表 1 のとおり実施した。

表 1 令和元年度の授業実施内容

	日付	授業実施内容
1	10 月 2 日	はじめに～求められる人材像、課題解決提案の作り方・考え方等～
2	10 月 9 日	各企業のご担当者様から課題発表（4 社、各 20 分説明と Q&A10 分）
3	10 月 16 日	奈良の今を知る①（学：奈良女子大学の教員による講義）
4	10 月 23 日	奈良の今を知る②（産：県内の老舗企業の経営者による講演）
5	10 月 30 日	奈良の今を知る③（産：県内のシンクタンク研究員による講演）
6	11 月 6 日	これまでの授業のフォローアップ①（課題の整理、解決提案作り）
7	11 月 13 日	課題解決策の中間報告プレゼンテーション
8	11 月 20 日	奈良の今を知る④（官：下市町職員による講演）
9	11 月 27 日	奈良の今を知る⑤（官：十津川村職員による講演）
10	12 月 4 日	グループ討議 基礎的な知識、効果的な手法、評価の方法、実践等
11	12 月 11 日	これまでの授業のフォローアップ②（課題の整理、解決提案作り）
12	12 月 18 日	各班の課題解決策への年末指導
13	1 月 8 日	奈良の今を知る⑥（学：奈良工業高等専門学校の教員による講演）
14	1 月 15 日	課題解決策の最終報告プレゼンテーション① （奈良交通株式会社、一般社団法人吉野ビジターズビューロー）
15	1 月 22 日	課題解決策の最終報告プレゼンテーション② （ホテル葉風泰夢、社会福祉法人ぷろぼの）

担当教員による座学では、学生達は「社会人基礎力」や「地方創生」を手掛かりに自分自身の「キャリア」を考察し、また、6名のゲスト講師による講演では、奈良県内の具体的な事例に触れることで、地域人材としての自分のキャリアについて考える機会を得た。

これを踏まえて、PBLでの取り組みを実施した。参画企業・団体から提示された課題の解決策の作成はグループで取り組むこととした。学生チームはフィールドワークの実施、企業・団体との質疑応答、中間報告会での報告などを通じて、検討を進め、最終報告会にて課題解決の提案を行った。

1) アクティブ・ラーニングを導入した授業

担当教員は5コマを担当し、アクティブ・ラーニングを導入した授業を行った。内容については以下のとおりである。

- ① 課題を解決するためのアプローチと課題解決策の作成方法の解説（特に、仮説思考と論理的思考）
- ② PBLでの課題解決策の取り組み内容に対するコメントとその具体的な指導
- ③ プレゼンテーションの効果的な発表と発表資料の作成方法の解説
- ④ グループ討議やグループワークの解説と実践、等

さらに、授業時間外でも課題解決策の指導を各チームにメールで行い、それを共有することで課題解決策のレベルアップ・ブラッシュアップをはかった。

また、前年度に行った「奈良県下の地方自治体の人事担当者インタビュー」をまとめ、地方自治体の職員として求められる人材像に近づくための授業内容とした。これにより、学生達は地方創生が喫緊の課題とされている今だからこそより強く求められる公務員像について把握し、今の自分に欠如・不足している力を補うための指針を示した。



写真1 PBL 課題発表



写真2 グループワークの取組内容の発表

2) 課題内容と課題解決策の作成

PBLは奈良県内の4社の理解・協力を得て行われた。4社には、①学生チームの受け入れ、②経営課題の提示、③学生チームが考える課題解決策に対する指導行ってもらった。

表2 PBL 受入企業とその経営課題

	社名とその会社のホームページ	受入の人数	出題された経営課題
1	奈良交通株式会社 https://www.narakotsu.co.jp/	12 人 (4 チーム)	あなたは奈良市の三条通りにある土産物店の店長に就任して、このお店の収支改善を命ぜられた。お店の改善（取扱商品・販売方法・ディスプレイ）を図るとともに、新商品（目玉商品）を開発し、その販売方法を検討することなどを通して、どのようにお店の収支改善を図るのか提案すること。
2	ホテル葉風泰夢 http://www.nara-halftime.com/	12 人 (4 チーム)	外国人観光客に奈良で楽しく過ごしてもらうためには、どのように情報を伝え、発信すればよいか提案すること。
3	社会福祉法人ぷろぼの https://probono.vport.org/	11 人 (4 チーム)	日本の人口が減少し、地方から都市に人口が流出している中、地方で生き生きと活動する人を増やすためにはどうすればよいか提案すること。
4	一般社団法人吉野ビジターズ ビューロー http://yoshino-kankou.jp/	12 人 (4 チーム)	地域経済分析システム (RESAS) を使用して分析を行い、東大寺周辺～奈良公園のエリアで、11 月のオーバーツーリズム状態を解消する提案をすること。

(順不同)

4 社は、第 2 回目の授業で、学生チームに「企業の概要説明」「課題の提示と説明」「その課題を解決するための専門的知識の提供と解説、参考情報の提供」を行った。なお、各課題は PBL 教育用にアレンジされたものである。

学生チームは 10 月中旬までに希望する PBL 受入企業を選択し、与えられた課題の解題を行うため、何をどう解決するのか等の大枠を打ち合わせた後、求められている内容と盛り込もうとしている内容がマッチしているか否か等の相談を行った（第 1 稿作成作業）。第 6 回目と第 7 回目の授業で、課題解決策の作成の進捗報告（中間報告）を行い、企業担当者からいただいたコメントに基づいて加筆修正を行った。（第 2 稿作成作業）

担当教員はメールでの指導に加え、第 11 回目と第 12 回目の授業でそれぞれ異なる観点から課題解決策の指導を行った。その結果、学生チームは、より多角的な視点から検討を進めるようになった。学生チームは「解決策が課題に対して確実に答えられているか」や「現時点での解決策の有効性」を自己点検して、必要に応じて、さらなる文献調査やチーム内議論を行い、1 月上旬に完成稿（第 3 稿）を提出した。第 14 回目と第 15 回目の授業では、課題解決策の最終プレゼンテーションを行い、4 社から講評をいただいた。

これらの課題解決策の成果は、後述する「成果の社会的還元（地域貢献）について」において改めて記述する。



写真 3 11/13 PBL 中間報告



写真 4 1/15.22 PBL 最終報告

3) ゲスト講師による講義

奈良県の各分野で活躍中の6名を講師として招聘し、個々の仕事内容や経験を踏まえた講義が行われた。

令和元年10月16日、本COC+事業で連携している奈良女子大学やまと共創郷育センター特任教授・前川光正氏より「奈良の今を知る① 奈良県経済の現状と奈良県内で活躍する企業」をテーマに講義が行われた。

奈良県経済の現状と特長について、“1%経済”（日本のGDPの約1%が奈良経済の力であること）や“貨物列車が走らない”（物流は陸上のトラック輸送であり、名古屋・京都・大阪の大都市圏をダイレクトに結ぶ国道や高速道路を使えば貨物列車より輸送力があること）等のトピックを紹介しながら解説された。また、奈良県内の多数の魅力・活力のある企業について紹介され、奈良で働くことのすばらしさについても言及された。



写真 5 講演者：前川光正氏



写真 6 奈良の今を知る①

<学生の感想>

- ① 奈良の経済の現状がよく分かった。確かに、貨物列車は走っていないが、トラック輸送で大都市圏に物を運べることは奈良の大きなポテンシャルだと思った。また、奈良の経済力が日本全体の1%ということを知り、驚いた。その中で、奈良の企業が活躍していることを知ることができた。
- ② 奈良県内の企業を紹介してもらい、奈良で活躍する企業が多くあることを知ることができたことは今後の就活の参考になった。

令和元年 10 月 23 日、柿の葉寿司 平宗（本店：奈良県吉野町）会長・平井直之氏より「奈良の今を知る② 平宗と吉野の歴史、柿の葉寿司が今日に至るまで」をテーマに講義が行われた。

講演の前半では、「なぜ、吉野町で柿の葉寿司が誕生したのか」や「吉野町の桜は山林王と呼ばれた土倉庄三郎氏が中心となって保護していたこと」について解説された。後半では、奈良の 3 大名物である“大仏・鹿・柿の葉寿司”のひとつである柿の葉寿司に関して、平宗の広告や販売方法、他の柿の葉寿司製造会社との連携などに言及しながら、その普及に努めていることについて紹介された。



写真 7 講演者：平井直之氏



写真 8 奈良の今を知る②

<学生の感想>

- ① 柿の葉寿司をおいしく頂いた。とてもおいしかった。“奈良に旨いものなし”は間違いだと分かった。また、柿の葉寿司の歴史や販売方法を詳しく知り、“売れ残った柿の葉寿司はその日の内に吉野川に捨ててしまえ”という程の品質管理はお客様の口に入るものだから徹底していることに感銘を受けた。
- ② 柿の葉寿司を頂き、その味を知った。柿の葉に殺菌効果があるということは知っていたが、食べたことがなかったので、体験できてよかった。味や品質管理の厳しさから奈良の名物になったことは理解できたし、今後も名物として普及していくと思う。

令和元年 10 月 30 日、公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ理事・田中俊行氏より「奈良の今を知る③ 公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボの活動を通して知る地域活性化」をテーマに講義が行われた。

講演前半では、同法人の取り組みである、奈良県安堵町、及び本学東隣に位置する船橋通り商店街での地域活性化の研究と実践について話された。安堵町での活動については、同町出身で日本を代表する陶芸家である富本憲吉関連の芸術分野の活動や、英語パフォーマンス甲子園の活動について紹介があった。船橋通り商店街に関しては、カフェこよみのオーナー・藤田洋子氏と船橋通り商店街協同組合理事長・横田好弘氏による商店街の取り組みの現状について、商店街で行われている華道を通しての伝統的日本文化の研究、事業者向けの経営支援事例などを紹介された。後半は、田中氏のこれまでの活動を振り返りつつ、人とのかかわりについて述べられた。特に、講師自身が大手証券会社で新規顧客の開拓を行っていた経験を踏まえて、相手（地域の人々）が求めていることを最優先に考えつ

つ、いかにリーダーシップを取って貢献するかについて説明があった。



写真 9 講演者：田中俊行氏



写真 10 奈良の今を知る③

＜学生の感想＞

- ① フィールドワークでは、地域の人々と話しあいながら活動することになるが、地域の人が求めることを一緒にする大切さを学んだ。教えて頂いた通り、まずは相手の要望を優先し、地域の人話をよく聞くことを大切にしてフィールドワークを行いたい。
- ② 新規顧客の開拓は大変だと思う。地域活性化を安堵町や商店街で取り組んでいることもすごいと思った。リーダーシップの取り方はチームのために貢献することが重要だと教えて頂いたのは今後の就活に活かしていきたい。

令和元年 11 月 20 日、奈良県下市町総務課課長補佐・松原正城氏より「奈良の今を知る

- ④ 地方創生の時代に求められる公務員とは？」をテーマに講義が行われた。

講演前半では、下市町で取り組んでいる「らくらく農法」や「下市町『元気印集落』事業」「援農プロジェクト『シモイチナジカン』」などを例として、下市町の現状について解説があった。後半では、「知識・創造・人脈・経験・思い」という 5 つのキーワードを挙げながら、これからの公務員に求められることについて説明があった。また、これからの公務員は、法律や ICT、国県や地域の事情・情勢、データ（内閣府の RESAS を使った情報分析）を常に情報収集して学び、先進事例を取り入れ、何でもやって町を活性化することが重要になるとの指摘もなされた。公務員を目指す学生のみならず、その他の学生にとっても自分自身の今後の学びについて刺激が与えられる内容であった。



写真 11 講演者：松原正城氏



写真 12 奈良の今を知る④

<学生の感想>

- ① 下市町の取り組みは非常に興味深く、地方創生の時代にこうした取り組みは非常に良いと思った。大阪に出ていった元町民に対して、生家の柿の木の手入れをするのをお願いするのはありだと思った。大阪は日帰り可能なエリアだし、生家のためになると思った。
- ② 古民家を改装した“移住お試しの宿”というのは良いアイデアだと思った。移住は本当にそこに住んでいいのかと不安に思うので、何泊かして下市町を知るのは良い。特に、宿泊者としてではなく、移住を考えている町民・生活者としてそこに長時間滞在するという事は良いことだと思う。

令和元年 11 月 27 日、奈良県十津川村総務課長・玉置広之氏より「奈良の今を知る⑤ 地方創生時代に求められる地方公務員とは？～その職務・職責・人材像～」をテーマに講義が行われた。

十津川村の概要と地域資産（谷瀬の吊り橋、源泉かけ流し温泉等）についての紹介の他、平成 23 年の台風 12 号による紀伊半島大水害についての説明があった。特に、「治水」も大事だが、「治山」も大事であり、森林の持つ保水力が大雨や台風の時に川の水量を減らすことに役立っていることを知ってほしいと語られた。また、十津川村産の木材を使用した復興住宅の建設や、村民の助けあい・支えあいによって村での暮らしの継続を図る「高森のいえ」構想などについて紹介があった。加えて、十津川村の過疎化を少しでも食い止めるべく、移住促進や温泉を使った健康増進に取り組んでいること等について説明された。



写真 13 講演者：玉置広之氏



写真 14 奈良の今を知る⑤

<学生の感想>

- ① 十津川村が水害にあったことは他の授業で聞いていたが、被害はとて大きいことが分かった。復興のために十津川村の木を使って復興住宅を建てたり、道路を整備したり、治水や治山をしていることも分かった。地元を元気にするには、災害から復興することが大切だと思うので、その取り組みを知ることができて良かった。
- ② 十津川村が「高森のいえ」構想で社会保険に跳ね返らないように取り組んでいることはすごいと思ったし、十津川村の雑穀や木を使った取り組みも十津川村の産品で地域活性化に繋がると思った。地方創生の時代は、こういったことからコツコツとやっ

ていくべきだと思った。

令和2年1月8日、奈良工業高等専門学校・竹原信也准教授より「奈良の今を知る⑥『地域』」を営む～地方自治・まちづくりの基礎知識」をテーマに講義が行われた。

地域の課題を解決するには法・地域・政策という学問領域の考えも必要になることから、まず、「地域社会の重要性」を法律・地域政策の観点から説明し、地方自治に関する基礎知識を説明された。次に、「地域」という言葉がマジックワードであり、多義的なので、どう地域政策に活かすかについて説明があった。その後、竹原氏から出題された「自ら地方自治を行うならば、どのような地域をデザインするか」について、地域住民の意識の変化や時代の流れに注意しつつ、グループワークを行った。地域に求められている役割や住民の意見に寄り添った地域の運営などの観点に留意しながら議論し、最後に各チームがそのデザインを発表し、竹原氏から講評を得た。



写真 15 講演者：竹原信也氏



写真 16 奈良の今を知る⑥

<学生の感想>

- ① 地方自治の基礎知識となる二代表制や地方公営企業法等を1年次の今から学べて良かった。地方活性化に興味があり、それには地方自治の基本を知ることが必要だと思っており、分かりやすく教えて頂いた。チームでした地域デザインは自分達の「地域にあったら楽しいので、それが欲しい」と思う施設・サービスだけでなく、地域住民が必要とする施設・サービスも考えるべきだと知ることができた。
- ② 地域をデザインするグループワークが楽しかったし、勉強になった。自分達が必要と思った施設をどこに配置するか、駅を中心にして人の流れを考えて・・・と考えていくうちに、「自分が住みたい町はこういう町なんだ」と思う反面、「それを実現するには法律や用地買収等の問題があって、地方自治ではこれらをクリアしてまちづくりをしているんだ」と思い、地方自治の町のデザインに興味を感じた。

以上の取り組みにより、学生はグループ討議やグループワーク、プレゼンテーション等の技法について学習し、その結果、自分の考えを言葉で正しく伝えるコミュニケーション能力が育成された。さらに、奈良県内の企業が抱える経営課題の解決策を考察・発表することで地元企業を深く知る機会を得るとともに、課題発見・解決能力等を養うことができた。また、ゲスト講師による講義では、奈良県内の地方公共団体・企業等の現状や求めら

れている人材像について、理解を深め、地元で働くことに興味関心を持ち、魅力を感じ取ることができた。

(2) ピア・キャリア・サポート

ピア・サポートとは仲間同士（peer）の助け合い（support）を意味しており、ピア・キャリア・サポートは、進路について学生が一人で悩まず、自身の将来にさまざまな可能性を見いだせるように学生同士で刺激を与え合う団体を目指してきた。また、ピア・キャリア・サポートが提示する「さまざまな可能性」の1つとして、奈良での就職を積極的に掲げ、その特徴や魅力を学生自身で探る活動を行ってきた。具体的には、学生自らが奈良を中心とする地域で活躍する社会人から自身の将来のロールモデルを探り、その社会人像を他学生と共有するものである。

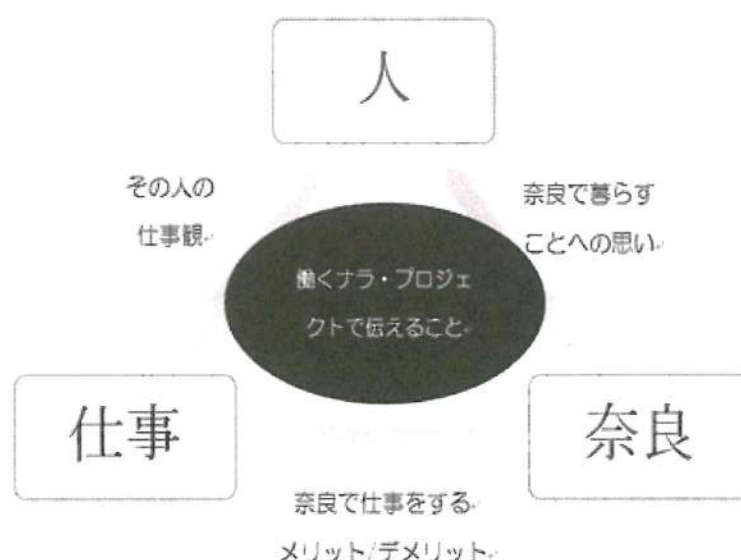


図1 働くナラ・プロジェクトで伝える情報

この活動は「働くナラ・プロジェクト」として現実化してきた。「働くナラ・プロジェクト」とは、奈良で実際に働いている社会人に学生自らがインタビュー調査をし、奈良で働くことになったきっかけ、奈良で働いている理由について聞き取る取り組みである。学内の他学生にも広く情報を共有するために、聞き取った内容をもとに壁新聞形式で成果物を掲示している。このプロジェクトでは、「働くこと」をより広い角度から捉えており、仕事の話のみならず、通勤や昼休み、休日等のプライベートなど、ワークとライフの両面でのアプローチを採用している。

令和元年度は新しい試みとして、5月13日に「先輩に聞く－留学体験談」と題するイベントを学内で開催した。文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN」に採択され、オーストラリア

のサザンクロス大学に半年間留学していた学生が「講師」となり、留学体験を紹介するとともに、留学がどのように自分たちのキャリアと結びつくのかについても在學生とやり取りを行った。

留学によって精神面が鍛えられ、辛いことがあってもそれが当たり前と思えるようになり、悩むことがなくなったことや、きちんと自分の意見が言えるようになりポジティブに生きるようになったことなどが留学体験者から紹介された。また、そもそも大学生のあるべき姿は勉学を楽しみと思えることと、そして好きなことに何でも取り組むべきであることを学んだことから、キャリアに関しても積極的には考えるようになったとして、留学のメリットについても報告された。

同イベントでは、ピア・キャリサ・サポートの活動も紹介され、その結果2名の新規メンバーの獲得に至った。



写真 17 留学体験からキャリアについて語る学生

もうひとつの新しい試みとして、これまでの活動は学外に学生が出かけていって社会人にインタビューすることが中心であったのに対して、学内に奈良で働く社会人を招いての交流会を11月28日に実施した。奈良市に所在する亜細亜交流旅行より、代表者の高橋辰氏に来学いただき、旅行業務の基本事項、ご自身が旅行業に携わるようになった経緯、これまでの旅行業務の経験などについて、座談会形式にて詳しくお話をうかがった。高橋氏は大手旅行会社勤務の後に、奈良県下で自ら起業された経験を有しており、「働くナラ・プロジェクト」の趣旨に照らしてとても有意義な機会となった。

また、高橋氏は10月24日から27日までインテックス大阪にて開催された「ツーリズムEXPO ジャパン 2019」において、奈良県下の企業による合同出展ブースの取りまとめをされていたが、これにメンバーの一部が参加し、世界規模の観光イベントにおいて、奈良を世界に売り込む活動の一端を担った。奈良という立場から旅行業界に接する貴重な経験となった。

(3) 連携校への出講

連携校名と出講の授業名は、奈良女子大学は「なら学+（プラス）」、奈良工業高等専門学校は「地域と世界の文化論」である。奈良女子大学には令和元年 10 月 8 日に 1 コマ、奈良工業高等専門学校には令和元年 6 月 11 日と同月 18 日に 2 コマを本学教員が担当した。

奈良女子大学の 1 コマと奈良工業高等専門学校の 1 コマは「人々との共創が織り成すコンテンツツーリズム」と題して増本貴士特任准教授が担当し、観光学のアプローチから、コンテンツツーリズム（アニメや映画等の映像・コンテンツを視聴した人が観光行動を起こし、その舞台地である地域を訪問・探訪して消費行動をして地域振興を目指すこと）について、事例研究を踏まえて講義を行った。事例研究では、担当教員が主催者の 1 人となって開催したコンテンツツーリズムのイベントを紹介した。「舞台地に住む地域の人々」、「全国から参加するファン」、「主催者（運営側）」の 3 者がその場所や作品を大切にしつつ、お互いの活動を尊重・慮りながら、イベントを成功させるべく共に創り上げ、持続可能なこととして取り組んで行くことを述べた。さらに、地域や主催者の作ったものがファンに消費され、そのうれしさを地域や主催者だけでなく web で世界的に伝えることで、「次も、ぜひ一緒に」と思わせて持続可能な状態にすることが最重要であると述べた。

奈良工業高等専門学校のもう 1 コマは「観光と地域の関わり合い」と題して薬師寺浩之准教授が担当し、世界中から訪日観光客（インバウンド）が年々増加している昨今、「そもそも観光とは何か」や「観光と地域とはどのように関わり合うのか」に関して、各地域で起こっている具体的な事象を織り交ぜながら幅広く講義をした。

4. 2 就職（企業との関わり）について

(1) 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～

本学の学生には、公務員志望の学生が多く存在することから、地域人材の育成や地元定着の推進の観点から地方公務員に注目して事業を実施した。また、ともすれば奈良県庁ほか、奈良市や生駒市など都市部の自治体にのみ目が行きがちな学生達の視野を広げるべく、県下 23 市町村への聞き取りに基づいて作成した小冊子の配布や中南部に所在する田原本町長とのランチミーティング、自治体見学ツアーなどを実施した。これを「COC+事業 奈良県内地方公務員受験サポート～地方公務員になりたいあなたへ～」と名付け下記の 8 つの事業に取り組んだ。

1) 小冊子「公務員として奈良で働きたい人へ」の改訂版を作成・配布

昨年度の取り組みのひとつとして、奈良県下の 21 市町村の人事担当者に「求める人材像」や「NG な人材像」、「採用計画と選考スケジュール」、「インターンシップの受け入れの有無」、「本学卒業生への評価」などについてインタビュー方式で聞き取りを行った。今年度は新たに 2 市（天理市、大和郡山市）の情報を追記した改訂版を作成し、本学の公務員試験対策講座の受講生や本学キャリア・サポート室に相談に来た公務員志望の学生に配布した。

<掲載市町村>

奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、王寺町、広陵町、河合町

2) 奈良県職員採用説明会の開催

平成 31 年 4 月 26 日、本 COC+事業で学内連携をしているキャリア・サポート室が主催となり、奈良県人事委員会の協力を得て奈良県職員採用説明会を開催した。

参加学生は 13 名（本学 7 名、奈良女子大学 6 名）であった。本説明会の目的は奈良県職員の仕事内容の理解を促進することで、近年重視されている口述試験（面接）の回答内容を充実させ、試験合格を目指すものである。奈良県人事委員会による採用スケジュールの紹介、詳細な勤務条件の説明の後、本学卒業生の現役職員から業務内容の発表が行われた。奈良県を志望した理由から、現在の部署の仕事内容まで詳しく紹介された。

参加学生からは「詳しい話をお聞きし、奈良県も受験の対象になった」や「職員の方から直接仕事内容を聞くことができて、モチベーションが上がり試験勉強への意欲も出てきた」等の意見があった。



写真 18 と写真 19 採用試験の内容や、本学卒業生から仕事のやりがい等
奈良県職員の働き方を詳細に説明された

3) 奈良県内 4 市の面接対策講座「スタディーセミナー」の開催

令和元年 5 月 8 日から 7 月 12 日までの水曜日と金曜日に、奈良県内の地方自治体の中でも、本学の卒業生が多く内定を獲得し、かつ、就職希望の比較的多い 4 市（奈良市・生駒市・橿原市・大和郡山市）の面接対策講座「スタディーセミナー」を開催した。講義形式で、4 市で働く魅力や採用に関する考え方等、各市の人事担当者にインタビューして知り得た情報をベースにしてレクチャーを行った。

「奈良市スタディーセミナー」は 5 月 10 日と同月 15 日に開催し、10 日のセミナーには 2 名（本学 3 年次生）が参加した。15 日のセミナーには 9 名（本学 3 年次 5 名、奈良女子大学 4 年次 2 名、3 年次 1 名、修士 2 年次 1 名）が参加した。その 9 名のうち、就職活動中であったのは奈良女子大学の 4 年次 2 名と修士 2 年次 1 名の計 3 名で、奈良市を受験していると語った。残りの 3 年次は奈良市を来年度に受験するので今から準備したいと語った。

「生駒市スタディーセミナー」は 5 月 17 日に開催し、2 名（本学 3 年次と、奈良女子大学 4 年次）が参加した。

「橿原市スタディーセミナー」は 6 月 12 日に開催し、本学 4 年次 1 名参加した。

「大和郡山市スタディーセミナー」は 7 月 12 日に開催し、本学 3 年次 1 名が参加した。

4) 個別相談会の開催

令和元年 5 月 24 日に個別相談会を開催し、本学 3 年次 1 名が参加し、面接対策についての相談に応じた。

5) 奈良県田原本町長とのランチミーティングの開催

令和元年 5 月 22 日、学内連携をしているキャリア・サポート室が主催となり、田原本町の協力を得て、田原本町役場と田原本町青垣生涯学習センターを会場に実施した。参加学生は 3 名（本学 2 名、奈良女子大学 1 名）で、当日は、森章浩町長の挨拶、田原本町の概要説明、重点政策の説明、採用試験の内容説明が行われた。その後、庁舎の見学と各部署の役割、仕事内容の説明が行われた。昼食会場は田原本町青垣生涯学習センターのカフェ弥生で、森町長、町職員 3 名、学生 3 名によるランチミーティングが行われた。学生からは「地域住民への交通手段はどのように確保しているのか」や「地域資源の活用はどのよ

うに取り組まれているのか」等の質問が町長に投げかけられた。森町長からも「女性に選ばれる町になるにはどうすればいいか」や「町の魅力を発信するのに効果的な SNS は何か」など、日頃は交流の少ない大学生からの情報収集が積極的に行われた。また、民間企業での勤務の後に同町職員に転職した職員の話からは、卒業からストレートに公務員になるケースだけではなく、公務員になるまでの「道」は様々にあることがうかがわれた。ランチミーティング後は「唐古・鍵考古学ミュージアム」を見学した。唐古・鍵遺跡について紹介され、観光資源にも恵まれている同町の魅力も理解できた。

森章浩田原本町長から「大学生との直接交流は、貴重な情報交換の機会である」とのコメントを頂き、大学生の SNS の活用を聞き、その場で職員に新しい指示を出されていた。

参加学生からは「上司とも近いことや住民とも近いことが、小さい町ならではの魅力だと感じた。小規模な自治体も受験してみたいなと感じた」や「未来に向けて新しい取り組みをしていると感じた」、「若者の意見を受け止めてくれる雰囲気があった」等の意見があった。また、この取り組みを取材するため地元のテレビ局や新聞社が訪れ、学生と自治体が相互に理解しあう貴重な取り組みとして報道された。



写真 20 田原本町舎内を見学。各部署の仕事と町民との関わりについて、説明を受ける



写真 21 田原本町長とのランチミーティング

6) 自治体見学ツアーの開催

令和元年 6 月 5 日に宇陀市役所と桜井市役所、令和元年 7 月 5 日に御所市役所、葛城市役所及び香芝市役所を見学するツアーを企画・実施した。

まず、宇陀市役所では、人事担当者から「宇陀市の概要」「職員採用試験の案内」「求める人材像」の説明があった。次に、本学 OB 職員から、「現在の仕事内容」や「自身の 3 年次当時の学びや就活準備」(ゼミでの活動、3 年次の頃の取り組み、自己 PR のネタ作り等)についての話があった。学生達は熱心にメモをとっていた。また、学生達からは、希望した部署に配属されているのか、通勤手当や残業、育休の取得等について質問がなされた。その後、本学 OB 職員の職場を窓口カウンター越しに見学し、具体的な仕事の内容や他の職員との役割分担等について説明を受けた。

桜井市役所では、まず人事担当者から「桜井市の概要」「職種の説明」「求める職員像」の説明があった。

次に、本学 OB 職員より、自身の 3 年次当時の学びや就活準備（東日本大震災から防災を学び始めたこと、平城遷都 1300 年記念事業にイベントボランティアで参加したこと、コミュニティ支援や市民協働に興味があったこと等）について話があった。

学生達からは、防災時の職員対応、残業、男性の育休取得状況、面接試験でのグループワーク等について質問があった。

これら 2 つの市役所へのツアー終了後に実施した参加者アンケートからは、自治体見学ツアーに「満足」したこと、「地方公務員になりたい気持ち」や「県内の地方自治体への受験・就職意識」が向上したことが確認された。



写真 22 宇陀市役所にて



写真 23 桜井市役所にて

令和元年 7 月 5 日には「御所市・葛城市・香芝市見学バスツアー」を開催した。

まず、御所市役所では、市長より「御所市は実質赤字比率や実質公債費比率は夕張市の次に危ないと言われる程、大赤字だった。そのため、補助金の見直しなど大改革を行った。市民は『補助金がなくても自分達でできることをやっこう』と一緒にイベント等を行って今でも継続して開催されている。赤字から黒字に転換できた」等の話があった。

次に、まちづくり課の職員が「中心市街地の活性化」「駅周辺の整備」「歴史的な町並みの御所まち」などのまちづくり関連の取組や御所市の歴史について解説した。

人事担当者からは、職員採用試験の案内や「御所市がいま求める職員像」について説明を受けた。最後に、奈良女子大学の OG 職員と参加学生との座談会形式の意見交流会を開催し、御所市役所を志望した理由、公務員受験のための学習内容、残業等について質疑応答がなされた。

葛城市役所では、まず、人事担当者より「葛城市の概要」「職員採用試験の案内」「求める人材像」等について説明を受けた。次に、本学と奈良女子大学の OG 職員より、現在の仕事内容、自身の経歴（企業から転職し、出産・産休・育休を経て市役所に勤務）、観光協会等と連携しながら観光に関する業務に携わっていることなどについてうかがった。

その後、学生達からは、葛城市の防災、残業、仕事量等について質問がなされた。職場見学では、市役所 1 階の各課や OG 職員が在籍中の課、議場を見学した。



写真 24 御所市役所にて



写真 25 葛城市役所にて

香芝市役所では、まず人事担当者より「職員採用試験の案内」、「求める人材像」、香芝市の概要等について説明を受けた。その後、学生達からは「新規卒業者等採用試験と職務経験者採用試験の違い」「香芝市の魅力」「残業や仕事量について」等について質問がなされた。本学 OG 職員からは、現在の仕事内容、大学での学修がどのように現在の仕事に結びついているかなどについて話があった。



写真 26 香芝市役所にて

自治体訪問後に実施した参加者アンケートにおいて、自治体見学ツアーに「満足」したこと、「地方公務員になりたい気持ち」や「県内の地方自治体への受験・就職意識」が向上したことが確認された。

また、本学参加学生のうち1名が見学ツアーで訪問した自治体から内定を獲得した。

7) 奈良県庁面接対策セミナー～面接試験前に準備して欲しいこと～の開催

令和元年7月3日、キャリア・サポート室主催による、奈良県庁面接対策セミナー～面接試験前に準備して欲しいこと～を開催した。参加学生は8名（本学4名、奈良女子大学4名）であった。公務員採用試験における面接試験の重要性は年々向上しているが、公務員志望者の中には、筆記試験を合格すれば面接試験は儀式的に行われるものだと誤って認識をしている学生が一定数存在している。一方で、面接試験での質問に対して、仕事に対する熱意が伝えられない学生の存在も目立っているのが現状である。これらの誤った面接試験の認識を改めるとともに、面接試験で伝えるべきポイントを学生にレクチャーすることで、合格獲得を目指すことを目的として実施した。講師は奈良県 OB に依頼した。セミナーでは採用試験の流れ、試験の実施内容について詳細に解説がなされた。特に、「グループワーク」「面接試験」の重要性が説かれた。セミナーの締め括りでは「県職員を志望した

動機は何だったのか、もう一度自分に問いかけて本当に奈良県職員になりたいと思ったら、胸を張って面接に臨んでください」というメッセージが講師から参加学生に送られた。学生からは「面接に向けて何を準備すればいいのか迷っていたが、奈良を良くしたいと考えている今の気持ちが大切だと知って少し安心した」「グループワークでは、アドバイスされたことに注意して臨みたい」等の意見が聞かれた。



写真 27 と写真 28 採用試験の形式や、県職員として働く矜持について等の講義が行われ、長年公務員として勤務してきた講師の話に、学生達が深くうなづく場面が見られた

上記の取り組みから、令和2年度の採用枠において奈良県3名、奈良市2名、生駒市1名、御所市1名、それぞれに内定獲得ができた。

(2) 学内業界業種説明会の開催

令和元年11月13日、キャリア・サポート室が主催し、奈良しごとiセンターの協力を得て学内業界業種説明会を開催した。参加学生は16名（本学15名、奈良女子大学1名）である。本説明会の参加企業の構成は、地域創造学部に対応した企業、学生構成比率の約70%が女子学生である本学を意識した企業、広く業界・業種を学ぶ機会としてのバランスの取れた企業、学生に企業理解を促しつつ人材確保に前向きな企業、の4つをベースとした。これらを元に複数の企業に参加依頼を行い、最終的に勤務地が奈良県内にある9社が参加した。

<参加企業>

(株)MST コーポレーション、カトープレジャーグループ、共栄社化学(株)、住江織物(株)
田村薬品工業(株)、DMG 森精機(株)、(株)十川ゴム、フジモトHD(株)、ホソカワミクロン(株)
(順不同)

本社を奈良県以外に持つ大手企業が参加したことで、学生達が持つ「奈良で働くこと、すなわち、奈良の地場産業」だけではないことの理解を促すことができた。

学生からは「大学で行われているので参加しやすかった」「他のイベントならば、大人数で聞くような大手企業の話の少人数で聞くことができよかった」等の意見が出た。また、参加企業からは「一人ひとりとじっくり話ができて満足している」「奈良工場に関心を持ってもらえてよかった」「貴学の学生気質を垣間見ることができ、次回も参加したいと思った」など、参加した学生に対する高評価を得た。

今後の課題は、本説明会に参加した企業との関係性を深く構築し、同様の説明会の開催等を含めた採用活動に繋げることである。



写真 29 と写真 30 世界的機械メーカーや薬品、繊維など 9 社が参加。質疑応答が活発に行われ、企業からも学生からも満足の声が聞かれた

(3) 働きやすい奈良県内企業の紹介～くるみん・プラチナくるみん・奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業～

学生が卒業後に奈良県内で安心して働き、生活して、豊かな人生を送るためには、働きやすい職場や恵まれた労働環境が必要である。特に、女子学生の地元定着を図るためには、子育て支援等のサポート体制が整っていることは重要な事項となる。そこで、学生に対して「働きやすい」・「女性の活躍推進に熱心」・「子育てサポートが充実」の 3 点を満たしている奈良県内の企業を紹介するために、「プラチナくるみん」・「くるみん」の各認定企業、及び「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」の人事担当者に聞き取り調査を行い、調査結果を小冊子にまとめ配布することにした。

「くるみん認定」は、厚生労働大臣が「子育てサポート企業」と認めた場合に取得できるものである。(企業は次世代育成支援対策推進法に基づき「一般事業主行動計画」を策定し、行動計画に定めた目標を達成する等の一定の要件が必要。)

「プラチナくるみん認定」は、くるみん認定企業のうち、より高い水準の取組を行った企業が一定の要件を満たした場合、優良な「子育てサポート」企業として厚生労働大臣の特例認定を受けたものである。

すなわち、この 2 つの認定は、厚生労働大臣が「子育てサポートに熱心な企業である」とお墨付きを与えるものである。企業は、くるみんマークを商品、広告等に付け、子育てサポート企業であることを PR できる。社員は子育てサポートが充実しているため、仕事と家庭の両立がしやすく働き続けやすい。

また、奈良県では、育児・介護との両立や、男女が共に働きやすい環境など仕事と生活の調和のとれた、また、雇用の継続や復帰がしやすいなど柔軟かつ多様な働き方ができる職場づくりや女性の就業率の向上など奈良県の実情に対応した地域雇用の推進、正規雇用の拡大など良質の雇用環境整備に取り組んでいる企業を「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」として登録し、企業の取組内容などを県のホームページ等で紹介し、その活動を応援する制度がある。

企業にとっては、有能な人材の確保、社員の意欲向上、生産性の向上、企業イメージのアップが期待できる。さらに、登録した企業の中から、取組内容が優れている企業を表彰する「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業表彰」制度もあり、企業は、この表彰を受ける



奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業マーク

ことで、さらなる企業イメージの向上が期待される。働く人にとっては、仕事と生活の両立、就業継続やキャリア形成に加えて、新たな雇用機会の獲得、心身の健康維持が期待できる。

これらを取得している奈良県内企業6社にインタビューができた。企業名及び取得した認定等は下記の表3のとおりである。

表3 取材先企業一覧

株式会社南都銀行	「プラチナくるみん」平成29年特例認定企業 「くるみん」平成24年・平成27年認定企業
市民生活協同組合ならコープ	「くるみん」平成20年認定企業
株式会社天理時報社	「くるみん」平成25年認定企業
株式会社明新社	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」平成23年度表彰企業
奈良中央信用金庫	「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」平成25年度表彰企業
株式会社ノプレス・セントラル	奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業

インタビューから共通点を読み解くと、下記の3つになる。

- ① 従前より「働きやすい職場づくり」や「女性の活躍推進」等に取り組んでいた。
- ② 優秀な若い人材を獲得すべく、これらの認定取得をPRし、採用に繋げたい。
- ③ 働きやすく子育てもしやすい職場環境整備により若手の離職率を低くしたい。

配布した小冊子を読んだ学生からは、「これだけ女性に優しく、働きやすい企業が奈良県にあるなら、その企業で働くことも考えたい」、「こういった企業があることを知り、男性も働きやすく子育て支援を受けられるのであればよいことだと思う。奈良県の企業の良さが分かった」などのコメントが寄せられた。

学生が、企業を知り自分自身のキャリアプランを考察するために、今後も奈良県内企業の情報を届ける取り組みは有用である。

(4) 奈良県と連携した奈良県内企業への再就職支援

再就職を支援していくことで、既卒者の採用ニーズが高い県内企業への就職支援にも繋がっていくため、奈良県と連携し、今年度より卒業生の県内再就職支援に取り組みを始めた。

奈良県雇用政策課と連携し、同課のホームページに本学卒業生向け県内再就職支援の紹介ページを立ち上げた。これにより、一度は県外の企業に就職したが、事情があつて奈良県内への再就職を希望する本学卒業生や子育てが一段落し県内での就労復帰を目指す卒業生の選択肢が広がることになった。

4. 3 成果の社会的還元（地域貢献）について

地元定着と地域人材としての能力獲得を目指す本事業によって育成された学生達は、学生を採用する企業・団体にとって大きな戦力となるであろう。前述した「地域連携・創生演習」のPBLは奈良県内の企業や団体（以下、4社という）が抱える経営課題に学生が解決策を提案するものであるが、授業内での取り組み成果の段階で、すでに学生達の解決提案は高い評価を得ることができており、事業成果の社会的還元を進めることができている。

学生は解決策を作成する際に、①奈良県の経済的な現状を分析する（例えば、観光業では宿泊を伴わない日帰りツアー、北和エリアのみを観光する等）、②各企業の店舗を現地視察して店長や店員にインタビューをして問題点の洗い出しを行うことで奈良の観光客の購買行動や店舗利用の実態を分析する、③グループで解決策を実施して得られた知見を元に解決策を再考する等を行う。これらにより、学生チームは4社の現状や課題を知り、各社の担当者と深くコミュニケーションを取り、解決策の検討を通して、企業の業務を体験できる。すなわち、学生達にとっては、解決策の検討を通じて、実際に社員として働くことの疑似体験となったのである。

では、解決策は4社にどう評価され、社会的還元（地域貢献）になったのか。以下は、最終プレゼンテーション終了後に4社からなされた講評である。

① 奈良交通株式会社

各学生チームに出題した課題の難易度はやや高かったと思うが、弊社担当者の意図・課題に一所懸命取り組んでいることが伝わってきた。大学1～2年次とは思えないレベルの高さに驚いている。

大学生らしいフレッシュな意見、女性ならではの目線で忌憚のない率直な提案をたくさん聞くことができた。将来的には、何らかの形で店舗運営に反映させていくつもりである。企業の課題解決を大学のカリキュラムの中で検証、提案してもらえることは、稀有な機会であった。今後も地元の大学と、そこで学ぶ地域の学生との接点は大切にしていきたいと考えている。このような取り組みはぜひ続けてもらいたい。

② ホテル葉風泰夢

解決策には弊社が採用可能なアイデアがたくさんあり、今後、店舗でも実際にどうすれば解決策を実現できるのかを考えていきたい。提案は各チームとも分かりやすいもので、中間報告時にコメントした内容を活かして解決策を改善・改良、修正できていた。特に最終報告時の提案には、新しくてオリジナルのアイデアがあり、インタビューや現地調査を通じた現状分析を行い、弊社がこれまで気づかなかった箇所に対する指摘等もあった。

③ 社会福祉法人ぷろぼの

中間報告でのアドバイスを十分に活かして、熱量のある大変すばらしい課題解決策のプレゼンテーションだった。各チームの提案は分かりやすく、当方の事業内容に照らしても新規性があり、これまで気づかなかった箇所に対する指摘もあった。大学の課題解

決型学習に参画したのは今回が初めてだが、学生の考えや意見を知る貴重な機会であり、学生とディスカッションできたことも有益であった。

④ 一般社団法人吉野ビジターズビューロー

全体的な評価として、課題解決策で RESAS を使ってきちんと分析できていた。RESAS が使えることは公務員に求められるスキルでもあり、熱心に取り組んだことは評価できる。総合的によい発表をした。1～2 年次だと聞いているので、今回の解決策は PDCA という P なので、今後の学びのひとつとして D（フィールドワーク）を実施し、C（各チームでチェック）を通して、A（今後のさらなる学びに向けた行動）をしてもらいたい。



写真 31・32 奈良交通株式会社への最終プレゼンテーション



写真 33・34 ホテル葉風泰夢への最終プレゼンテーション



写真 35・36 社会福祉法人ふろぼのへの最終プレゼンテーション



写真 37・38 一般社団法人吉野ビジターズビューローへの最終プレゼンテーション

以上の 4 社の講評から、学生達の解決提案は奈良県内の企業・団体より高い評価を得ることができたと考えられる。これらの学生達が卒業後に地域人材として定着することにより、更なる社会的還元が期待される。

4. 4 今後の取り組みについて

本学ではこれまで、学生にとって魅力ある就職先の開拓と地域が求める人材の養成というCOC+の課題に対して、「県内就職先の開拓」「ピア・キャリア・サポート」「観光・地域関連科目の提供」という3つの具体的な事業を展開することにより取り組んできた。「県内就職先の開拓」に関しては、奈良県下の自治体や企業をまわり、求められる地域人材についての情報を収集し、学生達にフィードバックすることや、学内での業界業種説明会の開催などにより、学生が県内企業を知るとともに、県内企業に対しても本学学生のことを知ってもらう機会を提供してきた。また首長とのランチミーティングや自治体見学ツアーの実施など、学生達が直に地域と接触し、地域人材として地域とかかわる実感が得られるように工夫をしてきた。

「ピア・キャリア・サポート」に関しては、奈良で働く社会人へのインタビューを学生達が直接に実施することで、奈良で働くことや奈良で生活することの魅力や課題について掘り下げる機会となってきた。これにより、就職活動に先だって学生達の県内就職に対する意識を高めることが可能となった。

「観光・地域関連科目の提供」では、奈良県内の企業・団体の職員と直接にやり取りするなかで、具体的なPBLの課題に取り組むことができた。この経験は、学生達に対してあらためて県内企業・団体の魅力を伝える効果をもたらしたとともに、地域の課題に取り組む地域人材としての能力を向上させてきた。

以上の成果を踏まえて、本学では今後とも本COC+事業の取り組み内容を継承していく。具体的には、キャリア教育を専門とする専任教員を新たに採用し、学生の就職支援を担当するキャリア・サポート室と連携しながら、以下のとおり、引き続き事業を継承し推進する。

- ① 学生の奈良県内就職率を向上させるべく、キャリア・サポート室とともに県内企業・自治体・諸団体との連携を図り、これまでの知見や関係性を活用して県内就職先の開拓を行い、県内就職を希望する学生を支援する。
- ② 県内インターンシップ先の新規開拓や調整、派遣前後の学生指導等をこれまで以上に入念に行い、また、ピア・キャリア・サポート活動の支援も継続することで、学生の県内就職の意識の向上を図る。
- ③ 県内就職率の向上やインターンシップ参加者数の増加及び内容の充実を図るために、キャリア教育科目の新設と体系化を推進する。